石巻専修大学
●「石巻専修大学」ホームページ● http://www.isenshu-u.ac.jp

代表電話番号
0225
(22)7711
広報専用FAX
0225
(22)7809

「いしのまきワンセグ」本格始動

坂田学長、関係者ら50人が開局祝う

▲　エリア放送の抱負を語る坂田学長（中央）

専大・福富研究室が協力

本学は7月に総務省東北総合通信局からエリア放送を行う地上一般放送局の本免許を取得し、8月から「いしのまきワンセグ」が本格始動した。

エリア放送を行う地上一般放送局の開局は東北初、教育機関初の試み。教育活用を目的にスタートし、将来は地元コミュニティーFM局と連携した市民向け放送（同時FM放送）を視野に入れ、継続的運営を図る。

また、放送や中継には、専修大学とかわさきFM、富士通㈱が昨年夏から実験を重ねてきた「かわさきワンセグ」（専修大学生田キャンパス周辺で視聴可能なワンセグ放送。ネットワーク情報学部の福富忠和、藤原正仁両研究室が推進）のノウハウが活用される。

「いしのまきワンセグ」のエリア放送開局イベントが8月6日、学生会館2階に新設の放送スタジオで催され、坂田隆学長をはじめ、関係者ら50人が出席し、開局を祝った。

はじめに坂田学長、総務省東北総合通信局の武井俊幸局長、ラジオ石巻（いしのまき災害エフエム）の高須賀精一郎常務取締役、北村悦朗石巻市副市長らがテープカットを行った。引き続き、かわさきFMのアナウンサー・宮下敏子さんの司会で開局イベントを開始。この模様はいしのまきワンセグと、かわさきワンセグで同時中継された。

また、16時からはラジオ石巻、かわさきFMの両局がワンセグ、ラジオの同時生放送を実施。ラジオ石巻のアナウンサー・松浦佳奈さんの司会で坂田学長、阪口卓也さん（経営2・宮城県東北高）らが出演し、今後への意気込みを語った。

石巻専修大学キャンパスに基地局を置く「いしのまきワンセグ」はキャンパス周辺で、携帯電話等で視聴ができる（いしのまき災害エフエムで音声のみを聴取可能）。湊信吾経営学部教授は「ワンセグ放送の継続、大学の授業や研究への利用、制作した番組をもとにした地域や専修大学との交流を通じて人の輪がつくられ、大きく広がっていくことを石巻ワンセグに期待している」と語った。

また、今回のイベントは専修大学の福富研究室が協力。同研究室の学生がデザインした「いしのまきワンセグ」のイメージキャラクター「まっきー」を用いたポスターの作成に加え、イベント当日は福富教授と学生7人が駆けつけ、放送をサポートした。

「三陸産業再生ネットワーク」連携協定を締結

宮城県沿岸地域の産業復興目指す

▲　復興に向けた連携協力へ。右端が坂田学長

本学と石巻、気仙沼両市の商工会議所、信用金庫は7月13日、「三陸産業再生ネットワーク」の連携協定を結んだ。震災で大きな被害を受けた三陸地域の水産業、水産加工業の復興を図るために連携し、大学の研究施設を活用した新商品の開発などに取り組んでいく。

本学で行われた調印式には、坂田学長をはじめ5団体の代表者が出席。坂田学長は「地元企業が元気になり、地域経済が活性化することが復興につながる」とあいさつした。

この組織では、生産拠点の復旧ができていない企業に委託生産先のマッチングを働きかけたり、信用金庫が手掛けるカタログ販売などの販路を活用して、両市の産品を全国に売り込んでいく販路開拓も行っていく。

本学ではすでに石原慎士経営学部准教授が青森県と石巻・気仙沼の企業マッチングを行っており、今回の協定で活動の促進が期待される。

今後は月1回のペースで運営会議が開かれ、8月には群馬県で三陸商品のPRを兼ねた販売会の開催を予定している。

図書館バスツアーを開催

「仙台文学館」訪ねる

◀　仙台文学館を訪れた学生たち

図書館バスツアー「仙台文学館を訪ねる旅」が7月7日に行われた。

これは、郷土にゆかりのある近代文学作品や文学者の資料を見ることで文学の魅力に触れてもらおうと、本学図書館が企画した。参加した学生は11人。大学バスで、緑あふれる台原森林公園（仙台市青葉区）の中に位置する同文学館を訪れた。

学芸員の解説や説明を聴いたり、井上ひさしの関連資料、仙台を舞台に書かれた作品・文学者の資料を見学し、学生たちは感性を磨く1日を過ごした。

「北極からの贈りもの～ホワイトギフト」

図書館で東北巡回企画

「リサ・ヴォート写真展」

▲　図書館入り口に置かれたシロクマのフィギュア

世界55カ国以上を旅する写真家、リサ・ヴォートさんの写真展が7月9日から13日まで本学図書館で開かれた。

「北極からの贈りもの～ホワイトギフト」と題したこの写真展は、東日本大震災からの復興を願って企画され、これまでに東北4県を巡回。宮城県では本学のほか石巻市中央公民館で開催された。

期間中、図書館の入り口には体長3メートルもの実物大のシロクマのフィギュアが置かれ、訪れた人の目を引いた。

会場にはマイナス30度を超える厳しい自然と、氷原でたくましく生きるホッキョクグマの姿をとらえた写真の数々が展示され、熱心に見入る人の姿が見られた。

7、8の両日にはリサ・ヴォートさんのトークショーも行われ、撮影で訪れた北極、南極についての魅力を紹介した。

本学で「TBC夏まつり」

石原ゼミなど4団体が参加

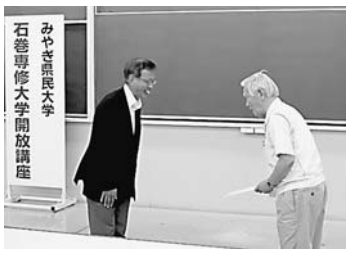
「TBC(東北放送)夏まつり2012」が7月21、22の両日、本学で開催された。本学からは4団体の約80人が参加し、盛り上げに一役買った。

参加したのは経営学部・石原慎士ゼミ（サバだし焼きそば販売）、同山崎泰央ゼミ（復興商店街Jr：物販）、災害ボランティアサークル「ネクスト」（復興缶詰め）、石鳳祭実行委員会(模擬店)。

なかでも石原ゼミはB級グルメとして知られる石巻焼きそばにサバだしを使った「サバだし焼きそば」の模擬店を出店。当日はゼミ生10人が、1食300円で販売した。

これは同ゼミが昨年開発し、商品化した「サバだしラーメン」に次ぐ、サバだしプロジェクトの第2弾で市内の製麺業者・㈲島金商店と共同開発した。サバのだしを使って蒸し焼きにした麺に、焼いたサバの身をそぼろ状にしたものと野菜を乗せて仕上げた。サバの香ばしい風味とうま味が十分に生かされたその味は好評で、多くの来場者が買い求めていた。

▲　石原ゼミの「サバだし焼きそば」の模擬店



大学開放講座が閉講式

66人に修了証書を授与

12年度みやぎ県民大学「石巻専修大学開放講座」の閉講式が7月26日、本学で開かれた。

今年度は「教育を考える～震災から学んだこと」を統一テーマに、6月7日からこの日まで全8講座を開講。震災からの貴重な「学び」を明日の教育・研究にどう生かしていくか、さまざまな角度から探究した。

閉講式では、大学開放センター長の若月昇理工学部教授から、6回以上の講座を受講した66人に修了証書が授与された＝写真。

被災地と一つに

「ドイツと日本・絆コンサート」

▲　「ドイツカンマーゾリステン」の演奏

ドイツのオーケストラのメンバーと音楽大学で教鞭をとる演奏者からなるアンサンブル「ドイツカンマーゾリステン」が7月26日、本学学生ホールで「ドイツと日本・絆コンサート」を開いた。

メンバーはフランツィスカ・ホルシャー（バイオリン）、吉田馨（バイオリン、ビオラ）、バーリント・ゲルゲリー（チェロ）、飛田勇治（コントラバス）、中井由貴子（ピアノ）の5氏。同アンサンブルはこれまでも毎年夏に来日し、コンサートや子供たちのための音楽講習会を開いてきたが、被災地の一つ宮城県の方に音楽を聴いていただく機会を作りたいと、今回の企画が実現した。

コンサートでは、シューベルトの「ピアノ五重奏曲第4楽章」、ロッシーニの「弦楽のためのソナタ第1番」などを演奏。温かい心の込もった演奏に、多くの聴衆から大きな拍手が送られた。